

平成30年8月30日

加西市議会議長 衣笠利則様

調査研究実施報告書

会派名 自民の風・誠真会

代表者名 丸岡弘満



下記のとおり行政視察を実施したので、報告いたします。

記

1. 調査年月日 平成30年7月30日(月)～8月1日(水)
2. 調査先 北海道伊達市、江別市、北広島市、千歳市
3. 参加者氏名 丸岡弘満 植田通孝 黒田秀一 松尾幸宏
※市民連合との合同視察

4. 研究目的及び内容

北海道伊達市(7月30日(月)14:10～15:30)

包括外部監査について(詳細は別紙)

市議会 寺島議長

総務部職員法制課 星課長、渡邊係長

議会事務局 坂元事務局長

北海道江別市(7月31日(火)9:45～11:15)

小中学校の学校選択制及び小規模特認校について(詳細は別紙)

市議会 宮川副議長

教育委員会教育部学校教育課

廣田課長、加茂係長

北海道北広島市(7月31日(火)13:50～15:30)

小中一貫教育について(詳細は別紙)

市議会 野村副議長

教育委員会教育部小中一貫教育課

富田課長

議会事務局 藤木事務局長

北海道千歳市(8月1日(水)10:00～11:40)

道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について(詳細は別紙)

観光スポーツ部観光企画課

吉見係長、藤原主査

議会事務局 寺嶋係長

5. 所感(別紙のとおり)

6. 添付書類

- (1) 視察行程表
- (2) 研修資料
- (3) 写真

北海道伊達市

【視察項目】

包括外部監査について

【目的】

監査制度の充実と機能強化に関する調査研究のため

1. 導入の経緯と手続き

市長からの指示もあり、平成23年に職員で研究会を立ち上げ、先進地視察や勉強会を行う。また、市議会を交えた研修会を行い、導入に向けて検討。①公正性・透明性を確保した効率的な行政運営、②コスト意識や経営感覚のある職員の育成、の効果が期待できると判断。担当は、監査委員会事務局ではなく市長部局（総務部）で対応し、従来の監査とすみ分けをする。包括外部監査経験者の「小規模自治体は数カ年で大きな懸念項目の検証が済むことがほとんど」との助言により、2カ年の期間限定で実施。

平成24年 6月 市議会委員会にて導入の考え方を説明

1 1月 研修会を開催（市職員・市議会議員）

1 2月 「伊達市包括外部監査条例」上程・可決

平成25年 2月 研修会を開催（市職員、市議会議員）

3月 「包括外部監査の締結について」を上程・可決

4月 包括外部監査契約書締結（25年度分）

平成26年 2月 監査結果報告書（25年度分）の提出

4月 包括外部監査契約書締結（26年度分）

平成27年 2月 監査結果報告書（26年度分）の提出

3月 議会で条例廃止

2. 外部監査にかかる費用

年間委託料800万円 ※交付税措置により実質、市の持ち出しは最終的に30万円。

3. 監査人と監査の対象範囲と実施

外部監査人：公認会計士1名（道外在住、行政事務に識見のある会計士を選任）

補助者：弁護士1名、大学教授1名、公認会計士1名、26年度は弁護士1名追加

外部監査人が監査テーマを設定し、25年度は「資産管理・運営について」、26年度は「福祉・社会保障について」で実施した。

外部監査人が来庁、担当課から所管事務の概要説明、書類や資料閲覧による検証をおこなう。分からない部分は職員へのヒアリング、現地視察へ行くなどした。特に「なぜ必要なのか」と厳しく聞かれることもあったという。

・平成25年度 28日間（ヒアリング112回、現地調査15回）24課が対象。

- ・平成26年度 34日間（ヒアリング45回、現地調査18回）8課が対象。

4. 監査人からの指摘事項

平成25年度…指摘事項37件、意見179件

公共施設に関する項目が多く、次いで市営住宅、備品、基金、財産の貸与と続いた。

（例）公共施設の計画的更新、合併した地域との格差是正（水道料金の統一、集会施設の統廃合など）、市営住宅（過剰供給、入居者の優先順位など）

平成26年度…指摘事項13件、意見55件

障害福祉、高齢者福祉に関する項目が多く、生活保護と続いた。ただし、福祉は法令によるものが多いため、指摘事項は少なかった。

（例）事務（記録をとること、アンケートによる現状把握など）

5. 指摘事項への対応と行財政改革への効果

外部監査人からの指摘事項や意見を受け、対応状況の把握と進行管理をおこなうために「進行管理実施要領」を作り、措置状況を毎年度2回、監査委員に報告。HPでも公開。

また、対応状況は「措置済み」、「個別改善検討」、「全庁改善検討」、「意識相違」、「対応困難」、「その他」で分類。短期間で結論を出せないものもあり、現在も措置に努めている。

平成25年度の指摘事項…83%対応済 平成26年度の指摘事項…94%対応済

（平成29年度下半期の報告時点）

指摘事項には、長年の懸案事項であったものも多く、業務改善や新たな制度の創設に拍車がかかった。制度を導入した目的は一定程度達成できた。従来の監査と比べ、より専門的・客観的な監査が実施できた。

- ・利用されていない、著しく利用頻度が少ない施設を無償譲渡や取り壊し処分
- ・「伊達市公共施設等総合管理計画」の策定
- ・「伊達市債権の管理に関する条例」の制定
- ・市職員の効率性、コスト面、コンプライアンス意識の向上 など

6. 外部監査人の議会への関与

- ・外部監査人が報告書を議員協議会で説明。
- ・包括外部監査の廃止後、議員からは報告に基づいた質問も多い。

7. その他（助言等）

- ・包括外部監査は報告書提出や公表が目的ではない。
- ・外部監査人からの指摘事項等の原因を精査し、措置等の何らかの対応を取り、実際の行財政運営に活かすことで初めて有効に機能する。

北海道江別市

【視察項目】

小中学校の学校選択制及び小規模特認校について

【目的】

今後の小・中学校のあり方に関する調査研究のため

I 学校選択制について

1. 学校選択制導入の経緯

学校教育法施行規則の一部改正（平成15年施行）により、市町村の判断で就学すべき小中学校の指定を変更できることが可能になった。

平成15年 9月 第1回通学区域審議会に「学校選択制」導入を諮問

その後、保護者アンケート、PTA・教職員組合への意見聴取、意見交換会、教育タウンミーティングの開催

平成16年 2月 第10回審議会にて導入の答申

市教委で学校選択制導入の基本的な考え方を決定

→市民説明会を開催（7回）

5月 市教委で導入決定

→保護者への説明会開催（19回）

8月 学校案内の冊子配布やHP開設、広報での周知

平成17年 4月 「学校選択制」実施

2. 導入の目的

①子供と保護者の願いに応じた学校選択機会の拡大

②「特色ある学校づくり」「開かれた学校づくり」の充実推進による学校の活性化

3. 審議会等での意見、アンケート等の結果

賛成意見として、学校活性化の推進、選択の権利保障、通学距離、友達関係などの観点から進めるべきとの意見があり、反対慎重意見としては学校間格差・序列化、地域とのつながりが希薄化、遠距離通学の身体的負担、通学時の安全面などがあつた。教職員は猛反発。

3～15歳児までの児童生徒の保護者1万世帯のうち、20%を無作為抽出し、46%から回答。「賛成」・「どちらかと言うと賛成」が62%、「反対」・「どちらかと言うと反対」は27%であつた。

4. 導入の方法

- ・現在の通学区域を維持し、小・中学校とも新1年生のみを選択制の対象とする。
- ・隣接する校区の学校を選択できるものとする。

小学校の選択範囲：多い校区で6校、少ない校区で2校

中学校の選択範囲：多い校区で5校、少ない校区で2校

・受け入れ枠を設定する。

多い小学校で35名、少ない学校で5名

多い中学校で35名、少ない中学校で10名

5. 選択までの過程、選択した児童生徒数とその理由など

・学校の一齐公開（2回）→希望申請書の提出→結果通知→入学説明会→入学

・平成30年度実績…小学生75名、中学生45名（全体の6%）が選択し入学。

初年度は61名であったが、近年は110～120名が選択している。

・保護者へのアンケートでは「満足・ほぼ満足」がほとんどであり、制度として定着している。「学校選択」に関心を持つ保護者が一定数いる。

・選択制を選ぶ理由：小学校 ①幼稚園の友達関係、②距離の近さ、③兄弟の通学
中学校 ①部活動、②距離の近さ、③友達

・学力テストでは小学校間の格差は拡大していない。

・通学は徒歩による。

II 小規模特認校について

江別市内に1小学校（野幌小学校）のみ。昭和60年代に全校生徒が40名を切り、複式学級となっており、廃校の危機にあった。地域住民らの要望により、平成4年、市内全域から通学できる「小規模特認校」の指定を受けた。

1. 目的

①心身の健康増進を図り、体力づくりを目指す

②自然に触れ豊かな人間性を培い、明るくのびのびとした特色ある教育

2. 特色

基本的に授業は他の小学校と変わらないが、学校行事において自然体験活動や異学年交流が盛んに行っている。

3. 定員など

各学年16名。野幌小校区内に児童がいる場合、16名からその数を引く。教員配置は他の小学校と同じ。卒業後は地元の中学校へ進学している。

4. 申請

保護者の申請→面談→野幌小校長の意見書提出→入学者の決定

※定員を超える応募があれば抽選（これまで実施したことはない）。

5. 通学方法

公共交通（主にバス）を利用して通学している。運賃は自己負担。

北海道北広島市

【視察項目】

小中一貫教育について

【目的】

今後の小・中学校のあり方に関する調査研究のため

1. 小中一貫教育の導入の経緯と目的

平成23年より小中連携教育に取り組んできたが、系統性・連続性に配慮した一貫性のある教育活動を展開していくために、27年より小中一貫教育の準備を開始。教育委員会に小中一貫教育課を設置し、3名の職員を配置した。

小中一貫教育により、①学力体力の向上、②豊かな心の醸成、③地域との協働関係強化、④教職員の指導力向上と協働体制の確立、の効果を見込んでいる。平成30年4月より、全ての中学校区で「小中一貫型小学校・中学校（併設型小学校・中学校）」を選択し、実施。

2. 導入にあたっての基本方針と取り組み

平成29年3月に「小中一貫教育推進基本方針」を決定。北広島市のめざす子ども像を「大志をいだき 心豊かに たくましく 生きる子ども」とし、3つの取り組みを設定。

- ①学びをつなぐ…学力・体力向上を図る連続した学習活動の充実
- ②大志をつなぐ…9年間のキャリア教育（「大志学」）の充実
- ③人と人をつなぐ…児童生徒、教職員、地域との交流活動の充実

さらに、各中学校区で発達段階ごとの目標や重点的な視点を定めて、学校・家庭・地域が共有し、取り組みを具現化する。

3. 保護者や地域への周知啓発

- ・小中一貫教育を紹介するパネル展の開催、解説リーフレットの全戸配布
- ・各中学校区で「教育を語る会」や小中一貫教育推進会議の開催 など

4. 小中一貫教育の推進体制

各中学校区に「小中一貫教育推進会議」を設置。また、各学校に「小中一貫教育推進委員会」（長は校長）を置き、小中一貫推進教育担当教師が中心となって、部会を置き、取り組みを進めていく。

5. 具体的な取り組み

- ①「学びをつなぐ」
 - (ア) 9年間の一貫した指導計画の作成
 - ・9年間の指導のポイントを明らかにし、小中の教員で「指導計画」「指導方法」開発。

- ・「教科系統表」を作成し、長期的視点に立ったきめ細かな指導の工夫に取り組む。
→中学校区ごとに指導方法の工夫改善を図る。

(イ) 小学校高学年の指導の工夫

- ・相互乗り入れ授業（中学校の先生が小学校で授業）や中学校への体験登校。
- ・小学校での一部教科担任制の実施。

(ウ) 中学校区ごとの「スタンダード」の確立と実践

- ・子どもや地域の実態に即した系統的・継続的な指導の取り組み方策「スタンダード」を策定し、家庭や地域に提示。

(エ) 「家庭学習の手引き」の活用

- ・各中学校区で作成。
- ・保護者の家庭学習の関与を明確化。

② 「大志をつなぐ」

(ア) キャリア教育（大志学）の全体計画、年間指導計画の作成実施

(イ) 「夢ノート」の活用（小4～中3）

(ウ) 職場訪問、職業体験、生き方指導、進路学習

(エ) 日本ハムファイターズとの連携（中学校への講師派遣）

③ 「人と人をつなぐ」

(ア) 児童生徒の交流の充実

- ・(例) 小中合同いじめ集会や合唱交流、小学校での部活動紹介

(イ) 教職員の協働による学校運営

- ・合同研修、授業交流や授業研究

(ウ) 学校、家庭、地域が一体となった豊かな教育環境づくり

- ・コミュニティスクールの推進、小中 PTA の連携、小中合同の地域貢献活動

6. 今後の取り組み

①各中学校区での取り組み

- ・経営方針の共通化
- ・学校評価やアンケートの共通評価項目
- ・研究課題の共有化
- ・全教科の「教科系統表」や「指導計画」の作成

②教育委員会の取り組み

- ・転入教職員への研修会
- ・小中一貫教育推進会議の開催
- ・周知啓発（HP、パネル展）
- ・条件整備（教科書、講師謝礼、旅費等）
- ・アンケート等の実施による検証と改善

北海道千歳市

【視察項目】

道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について

【目的】

民間活力を導入した道の駅建設方法とその後の運営に関する調査研究のため

1. リニューアルの経緯

平成16年8月 「千歳市サーモンパーク」を道の駅として登録。

平成17年6月 旧「道の駅サーモンパーク千歳」の供用開始

平成6年に整備したトイレの老朽化、飲食物販の施設が点在しており、利用しづらいことから平成23年からリニューアルに向け着手。①飲食・物販・情報コーナーを1つの建物に集約、②広くて明るいトイレ、③隣接する水族館や川辺への動線、④トイレを建物の一番奥に配置、など工夫した。

平成26年6月～7月下旬 指定管理者の募集・選定・議会の議決、協定締結

平成27年8月 リニューアルオープン

2. 施設の概要

- ・面積 延床面積 1,870平米（1階建て、鉄骨造）
敷地面積 30,000平米
- ・施設内 農産物直売所（JA）、レストラン2店舗、フードコート4店舗、
物販（シダックス直営）、コンビニ（ローソン、24時間）、キッズスペース、
事務室、ロッカー室、休憩室、機械室、物品庫、ごみ庫など
トイレ（男：大5・小8、女：14、キッズトイレ：大1・小1、多目的2）
- ・施設外 駐車場（普通車213台、バス14台、身障者6台）、EV充電器1台
（特記）コンビニは防犯上の観点から設置することに決まった。

3. 整備・運営について

総事業費：約12億8千万円

※うち道の駅施設整備費は8億円、商業施設のため一般財源で対応。

※外構工事は各種補助金（北海道、防衛省等）を活用。

事業期間：平成23年度～27年度

運営方式：道の駅施設…リース+指定管理者方式を導入、8年間のリース契約とした。

シダックスが指定管理者。

駐車場は市が管理。

指定管理料：0円

リース料：10年の割賦により返済（年8,088万円）

4. 来場者数の状況

平成27年度…約56万人（8カ月間のみ）、平成28年度…100万人、

平成29年度…99万人

※リニューアル前は51万人であった（25年度）。道内の道の駅では5位。

（平成28年度実績）

月別で見ると8月が13万1千人で一番多く、12月が4万4千人で一番少ない。冬季の来場者が少ない。千歳市内…32%、道内…33%、道外…21%であった。また、屋内のキッズスペースがあることから、子育て世代の利用が多い。来場者の70%が車での来場。

リピーター対策として、隣接する水族館（サーモンパーク）との連携企画（謎解き）、石狩管内の他の道の駅との連携企画（グルメラリー）を実施。

5. 市民の利用

- ①キッズスペースの利用、②レストラン・フードコートの利用、③野菜直売での購入、④隣接する水族館の利用 など

6. 売上について

見込額…5億1千万円（実際の売上額は公表せず）

※収益が黒字であればその1/2を市へ納付（赤字であれば不要）

千歳市への収入…平成29年度に82万円（初めてのこと）

7. 指定管理料以外のランニングコスト（市負担分・年間）

建物…141万円（法定経費）

駐車場部分…1,972万円（警備、維持管理、除雪）

8. その他

- ・事業報告書を年1回、市議会にも提出している。
- ・市長のトップダウンで「道の駅」建設が決まった。中身は検討委員会で議論することなく、議会の委員会で二十数回議論してきた。
- ・当初、駐車場部分を含めた指定管理者を募集したが応募は0社であった。コンサルが売上見込額を7億1千万円としていたが、市役所が事業者ヒアリングし、見込額を下方修正。さらに駐車場を市の管理に変更。2回目の募集をかけたところ4社からの応募があった。
- ・現在の指定管理者は市内業者ではないが、レストランやフードコートの出店に様々なルートを持っていることが魅力であった。

〔所感〕 丸岡弘満

【北海道伊達市】

○包括外部監査について

包括外部監査制度を導入したことによって行政の細かい所まで監査の鋭いメスが入っていると思えた。実際に評価も全国市民オンブズマン連絡会議の「2017年版包括外部監査の通信簿」の結果発表でも、自治体の措置対応で総合評価結果Aランク 23自治体選ばれた中に伊達市も入って高く評価されている。

平成25年と26年に800万円の委託料が出ているが、平成24年に北海道内の義務付けのない自治体として初めて条例制定したために特別交付税として措置され、市の持ち出しは30万円で済んでいる点や、すでに全国で実績のあった香川県の公認会計士の石川氏を外部監査人として起用したことによって市は期待以上の結果を残せたとのことであった。また、監査人による28日間集中をして対象部署9部24課にヒヤリング112回と現地調査15回を実施し、257ページに及ぶ結果報告（指摘事項37件、意見179件）も大変注目すべき点であり、長年の懸案事項だけでなく、今まで続けてきた事務の方法に対しても業務の改善や新たな制度の創設などにより、効率的な運用に切り替えることが出来たようである。特に、行政課題への対応や行政事務を外部の専門家によりチェックしてもらったことで、広い視野をもってコスト意識や経営感覚のある職員の育成が図られ、監査結果や結果に対する措置の公表のほか、指摘事項等に対する対応の検討や議会での質問を通して、職員の効率性やコスト面、コンプライアンスの意識が向上しているそうである。結果、行財政改革の進展に寄与している点が大変素晴らしく、加西市においても是非とも検討していただきたいと思う。

【北海道江別市】

○小中学校の学校選択制及び小規模特認校について

学校選択制については、学校への通学距離の問題やいじめ問題、クラブ活動の有無や大規模校に馴染めないため小規模校へ行きたいなどを理由に学校を選択しているが、特に急ぎ加西市で導入する制度でもないと感じた。ただ、江別市の場合や制度実施状況からみると、加西市も就学指定校の変更（学区外就学）と区域外就学が認められてはいるが、学校選択の自由はこれまで以上に柔軟に対応してもよいのではないだろうか。また、それぞれ選択した後の学校生活にもほと

んどが満足をしており、平成17年から実施している通学区域の指定校以外の隣接する学校を選択する場合に、子供と保護者の希望により入学できる学校選択制は成功していると感じた。

小規模特認校制度については、地域・保護者からの学校存続の要望を叶えた形となっている。では、小規模校をどうやって残すのかということで、貴重な平地原生林自然公園である野幌森林公園を背景にした学校づくりと自然に囲まれた豊かな環境で、子供達が元気いっぱい友達と楽しく学校生活を送れるとした特色づくりをして小規模校を存続させている点に共感を覚えた。また、地域との関わりも非常に強く協力的で、野幌小を選択する理由の一つにもなっているようである。

そして、江別市には、野幌小学校と同じく小規模の角山小学校があるが、平成30年度に統合されている。これは、地域住民の存続してほしいとの声もあってこれまで長年存続してきたが、いよいよ全児童数が3名や4名になったため、地域保護者の意見で統合という結果になった。加西市においても安易な数字だけを見て学校の統廃合を進めるのではなく、江別市と同じく統廃合については地域・保護者の声を無視することなく十分に意見を聞き尊重して決定するべきであると思った。

【北海道北広島市】

○小中一貫校教育について

北広島市では、平成23年度より全ての中学校区において小中連携に取り組まれていたが、お互いの取り組みへの評価・要望だけで終わってしまう傾向などがあつたため、本年度の平成30年から系統性・連続性に配慮した一貫性のある教育活動である「小中一貫教育」がスタートしている。

先ず、27年の後半から28年にかけて全市一斉に「小中一貫教育」宣言をし、先導的なモデル校もつくり、教員研修や市民向けの説明会、視察や組織づくり等の移行に関する予算250万円を掛けて実施している。特に9年間の一貫した指導内容と指導方法を確立し、北広島市が目指す子供像を達成するために指導計画を作成することが一番重要であったようであり、親が子供を家庭で指導をする「家庭学習の手引き」もいち早く作成したことで家庭学習時間も増えて効果が出ているとしている。また、9年間を見通し一貫した教育課程を編成して実施することで、成績の伸びや子供達の変化は漢方薬のようにじわりじわりと効果が出ているとのことであった。全国的なデータや北広島市においても中学校への進学に際し、小学校段階からの学習面でのつまずきの蓄積、小学校段階では顕在化していなかった人間関係の課題や「学びをつなぐ」学力・体力向上に関する

取り組み、「大志をつなぐ」9年間で学ぶ“大志学”キャリア教育、「人と人をつなぐ」子供同士、地域等との交流活動という3つの「つなぐ」をキーワードに具体的な取り組みを推進することによって、児童生徒の「生きる力」を育み学び、小中一貫教育推進の効果があると説明を受け、大変に勉強になった。そして、小中一貫教育の先進地視察ということで、呉市や小野市も視察されたようで、特に小野市の科学的根拠等を示し数字やデータを重視しながら市民へ説明するやり方、行政の市民の巻き込み方が非常に上手で感心したとの感想をいただいた。加西市においても、これまでの連携に取り組んできたことによる成果を基盤とし、さらに制度的基盤が整備されたことを活かして「小中一貫教育」を目指すべきではないかと思う。

【北海道千歳市】

○道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について

数年前にこちらの道の駅へ立ち寄りさせていただいた経験があるが、その時に感じた印象とは明らかに違った。今は、地元野菜の直売所や北海道で大人気のレストランとコンビニが併設され「おいしい・楽しい・うれしい」の3つが揃う「まちなか、にぎわい空間」として見事に生まれ変わった感がある。

ここは、平成6年に整備され、平成16年には、道内85番目の道の駅「千歳市サーモンパーク」として登録され、市民や道内外からの観光客など年間約55万人が訪れる市内有数の観光施設であったようではあるが、市役所若手職員の提言などもあり、これからの観光ニーズの多様化に対応し、千歳川を活用した賑わいのある道の駅とするために総額約12億8千万円（一般財源：約8億円）をかけ、平成27年にリニューアルオープンをしている。また、建設運営方法については、事細かなことから議会へ報告をし、委員会を何度となく開いて議論をし、PFIやDBO方式などを比較検討した結果、リース+指定管理者方式（年80,873千円返済で10年割賦、指定管理者と0円契約のため委託料なし）を取り入れている。特に、女性、子育て世代を意識した施設整備（トイレ・ポーネルド遊具・プロジェクションマッピング・授乳室・おむつ替えコーナー等）をしたことにより、約5億円の売り上げと黒字収入の半分が千歳市へ入り、平成28年から年間利用者が100万人を超えている。

現在、加西市の鶉野飛行場跡地において道の駅の建設が検討されているが、如何に公的負担を少なく建設から管理運営まで民間活力を利用し、公共施設としての役割を十分保ちながら企画運営が上手な民間パートナーを見つけるかに懸かっていると思う。地域からの安心・安全面からの要望で24時間営業のコンビ

ニも併設されているが、指定管理者であるシダックス大新東ヒューマンサービス株式会社とのサービス連携があるから運営できており、会社の強みである「食」の部分においても商業的ノウハウを活かして多くの有名店を誘致して成功をしていることから、経営については十分な計算と情報分析、実績ある民間活力の導入で、多額の借金だけが残る失敗しないよう慎重に計画を進め考えてもらいたいと思う。

会派先進地視察 「所 感」

自民の風 植田 通孝

○7月30日(月)伊達市 視察

「包括外部監査について」

厳しい財政状況下にあつて、行政サービスの向上を目指すには、公正性、透明性を確保しつつ効率的に行政運営を行う必要がある。行政課題への対応と行政事務を外部の専門家によるチェックのほか、広い視野を持ってコスト意識や経営感覚を持った職員の育成の必要性に鑑みて、その効果が期待できる価値ある制度である。より専門的・客観的・鳥瞰的な視点に立った外部の専門家による監査は、経済性、効率性、効果性の向上など、経営的な行財政改革を行う上で重要な役割を果たしたと確信させられた。我が加西市民病院において、この包括外部監査を考えてみる必要があるのではと思う。

○7月31日(火)江別市 視察

「小中学校の学校選択制及び小規模特認校について」

小規模特認校(1学年16名)の存在意義は理解出来るものの、学校選択制の意義が理解できない。選択肢として、公立小中学校の中に受験に特化した学校やスポーツに特化した学校が選択肢としてあるのであれば、小規模特認校同様に価値があるが、現状の学校選択制度は中途半端としか言いようがない。

とは言え、いじめっ子から離れた学校生活が選択できるメリットはある。

○7月31日(火)北広島市 視察

「小中一貫教育について」

平成30年度より「小中一貫教育」を全中学校区で導入する方向で進められるようである。それ故にまだ確固たる成果が出ていない。「小中一貫教育」の推進に向けての『ねらい』は、学校・家庭・地域が一体となって「子供の連続した学び」を支える体制を構築し、義務教育9年間を終了するに相応しい「生きる力」を育成する。ねらいはすごく良い。

『めざす子ども像』は、「大志をいだき 心豊かに たくましく 生きる子ども」

- ① 学力・体力を着実に伸ばし、学校・勉強が好きな子を育てます。
- ② 自分に自信を持ち、思いやりと仲間を大切にする子を育てます。
- ③ 将来の生き方を考え、目標に向かって挑戦することができる子を育てます。
- ④ ふるさと『北広島市』に誇りを持つ子を育てます。

とのこと、特段に変わっていなくて普通であるがそれがまた実に良い。クラーク先生の『ボーイズ ビ アンビシヤス』もしっかりと盛り込まれているのには、感心した。

○8月1日（水）千歳市 視察

「道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について」

リニューアル前利用者 52 万人から 100 万人に増加している。大きな改善ポイントは、飲食・物販・情報コーナーを同一建物に集約して、来場者の利便性を高め、広くて明るいトイレとするとともに、駐車場はゆったりと駐車できるように整備し、駐車場からセンターハウスにアクセスする人を奥まで呼び込むとともに、隣の「サケのふるさと千歳水族館」や千歳川の川辺空間との動線にも気を配り、センターハウスは、明るく開放的なアトリウムと親しみやすいフードコートを入り口近くに配置し、観光客や市民が気軽に来やすい空間づくり、イベントスペースとしても利用可能とし、多くの人が利用するトイレは一番奥に配置している。

我が鶴野飛行場跡地周辺整備も、こうあってほしいものである。

【所感 黒田秀一】

■伊達市 包括外部監査について

伊達市では、外部の専門的な知識を持った者と監査契約することによって、監査機能の専門性や独立性を強化して監査に対する住民の信頼を高めることを目的に行ったわけです。

香川県の石川公認会計士に北海道まで足を運んでもらって2年間行ったわけですが、その間ヒアリング112回、現地調査15日行い、指摘を受けたものには長年の懸案事項であったものがあり、業務の改善や新たな制度の創設に拍車がかかったとのことでした。

加西市も一度外部の専門家による監査をしていただきたらと思います。経済性・効果性など、経営的な行財政改革を行ってはいかががかと思いました。

■江別市 小中学校の学校選択制及び小規模特認校について

加西市の小中学校は田舎の学校というイメージがあって、選択制には馴染まないのかなと思いました。近くの学校に行くのが当たり前で、歩いて行ける学校が一番かと思います。ただ、今問題のいじめについて、この制度があれば、他の学校に転校して問題を解決することができると思います。

小規模特認校制度について、私はいい制度だと思います。小規模で自然豊かな環境で、のびのびと勉強して、学習に打ち込むことができることは子供にとって一番だと思います。先生も、児童が少人数ですので、一人ひとりに目が行き届き、きめ細やかな学習指導ができるのではないかと思います。

■北広島市 小中一貫教育について

北広島市の小中一貫教育のねらいは、学校、家庭、地域が一体となって「子供の連続した学び」を支える体制を構築し、義務教育9年間で修了するに相応しい「生きる力」を育成することだそうです。

加西市はまだまだ先のことかもしれません。小中一貫というよりは、各小学校の生徒数が減ってしまい、統合も考えに入れて考え直さなければならないと思います。

■千歳市 道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について

道の駅サーモンパーク千歳は平成27年8月にリニューアルオープンしました。農作物の直売所、レストラン2店舗、フードコート、土産物、コンビニエンスストアを配置し、指定管理者制度で運営しています。特色としては、自然光を取り入れた明るいきれいなトイレで、道内1位にランクしています。またキッズスペースも設けて、家族で多くの方々が来られていました。指定管理は5年

の契約で契約料なしで、代わりに収益の 1/2 を千歳市に納付するとのことでした。

千歳市には自衛隊の基地もあり、道の駅には特定防衛施設周辺整備交付金が使われているとのことでした。加西市にも鶉野飛行場の整備に際し、道の駅も整備し、こういう制度を活用してはどうかと思いました。

視察所感 松尾幸宏

伊達市 包括外部監査について

委託費用が2年間で1,600万円。特別交付税措置により実質費用負担が60万円で、財政の経済性・効率性・効果が向上し、経営的な行財政改革が実行できた例を見ると、加西市に於いて包括外部監査制度を取り入れない理由は見当たらない。現在の監査委員との住み分けも出来ていると聞くので、執行者におかれては実施に向けて是非検討していただきたい。

江別市 小中学校の学校選択制及び小規模特認校について

小規模特認校については、加西市に該当するような立地環境等の学校がないため実施は難しいであろう。学校選択制については、現在加西市に於いては、クラブ活動を根拠に中学校選択制を行っているが、現状1名と聞く。江別市においては5～6%の選択制による入学者があるそうだが、極端な偏りはなく定員オーバーによる抽選も過去なかったそうである。加西市に於いても地域により指定校より他の学校の方が通学距離の短い場合があり、その場合は検討の余地はあるが、学校選択制については希望校の偏りが懸念され導入については難しいと考える。

北広島市 小中一貫教育について

小中一貫教育については様々なパターンがあり、連続性のある指導・教育については納得できるが、小学校上級生としての自覚が芽生えないような、学年構成・学校形態はいかがなものかと思う。現在加西市でも、善防中学校校区で併設型の小中一貫教育が検討されているが、各学校間の距離が相当あり、乗り入れ授業等の実施には無理がある。加西市独自の取り組みも必要になると感じる。担当者が以前小野市の小中一貫校の視察に行かれ、地域をうまく巻き込んで運営されているとの印象を受けられたそうです。加西市においても地域の協力を得た独自の一貫教育を模索する必要があると感じた。

千歳市 道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について

ユニークなところは運営を指定管理者への委託料はゼロ円で、利益が上がった利益の半分を千歳市に納入する点である。又、設備・運営について執行者と市議会（常任委員会）が20回以上の会議を開き検討したと聞き驚いた。加西市に於いて過去、建築物の設計・運用・運営について市議会と細かな打ち合わせをした記憶はない。鶉野飛行場跡地の防災備蓄倉庫はもうすでに着工済みだが、鶉野ミュージアム・道の駅構想については、私共も積極的に関与して行くべきだと考える。千歳市の議員の中に道の駅のエキスパートがいらっしゃり、「トイレがまず綺麗でないといけない」との意見を発端に様々な議論あったと聞くが、私達も専門的な知識を勉強しなければならないし、執行者も私たちの意見が反映できるようなタイミングでの説明会を是非お願いしたい。

視察行程表

7月30日(月)

08:45 発 神戸空港 (SKY171)

11:00 着 新千歳空港

※到着時間が遅れたため、伊達市視察の開始時間を遅らせることになった。

11:15 発 新千歳空港駅 (JR 新千歳空港線：快速エアポート 113)

11:18 着 南千歳駅〔乗換〕

12:45 発 南千歳駅 (JR 千歳線・室蘭本線：特急スーパー北斗 12)

13:56 着 伊達紋別駅

14:10~15:30 伊達市視察

・包括外部監査について

17:00 発 伊達紋別駅 (JR 室蘭本線：特急スーパー北斗 13)

※予定は 15:58 乗車であったが、線路の異常により列車が大幅に遅れた。

18:45 着 札幌駅

【泊】ホテルサンルート札幌

7月31日(火)

08:53 発 札幌駅 (JR 函館線)

09:19 着 高砂駅

9:45~11:15 江別市視察

・小中学校の学校選択制及び小規模特認校について

12:18 発 高砂駅 (JR 函館線)

12:32 着 白石駅〔乗換〕

12:49 発 白石駅 (JR 千歳線)

13:04 着 北広島駅

13:50~15:30 北広島市視察

・小中一貫教育について

15:52 発 北広島駅 (JR 千歳線：快速エアポート 154)

16:04 着 千歳駅

【泊】ホテルウィングインターナショナル千歳

8月1日(水)

10:00~11:40 千歳市視察(道の駅にて)

・道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと
運営について

13:05 発 千歳駅 (JR 千歳線：快速エアポート 124)

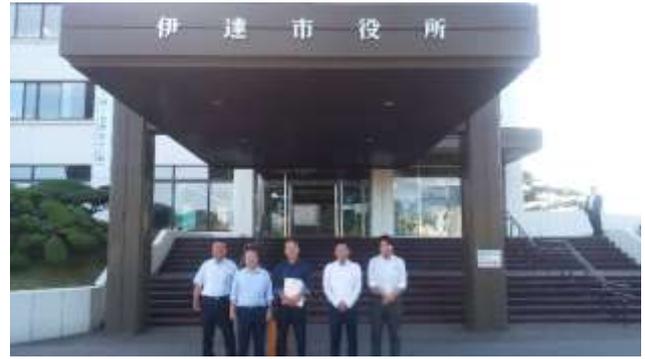
13:12 着 新千歳空港駅

16:05 発 新千歳空港 (SKY176)

18:05 着 神戸空港

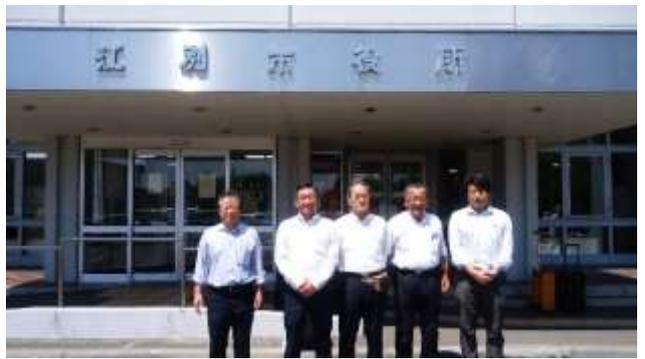
【平成30年7月30日】

伊達市「包括外部監査について」



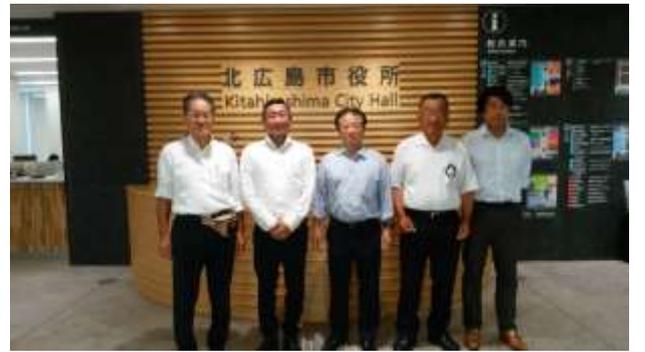
【平成30年7月31日】

江別市「小中学校の学校選択制及び小規模特認校について」



【平成30年7月31日】

北広島市「小中一貫教育について」



【平成30年8月1日】

千歳市「道の駅サーモンパーク千歳のリニューアルと運営について」

